

駅のスタンプを活用した都道府県学習

京都府公立小学校教諭

新学習指導要領には都道府県の「様子について、資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、都道府県の特徴を考えるようにする」とあり、その中に「交通網の様子や主な都市の位置」を調べることが含まれている。

そこで国土認識を養うために国土を貫く新幹線網を軸とした高速鉄道網を駅のスタンプラリーで巡ることを考えた。とくに新幹線を活用すると1日で青森（八戸）から鹿児島（博多～新八代は「リレーつばめ」）まで行くことができることに着目すると、国土の大きさ等も概観できるのである。

さらに新学習指導要領は現行と同様に、自身が住む都道府県を概観することを求めている。したがって、ある県内だけのスタンプラリーでもよいし、場合によっては自分たちでスタンプを収集することもできるのではないだろうか。

1 日本全体を概観する学習

まずは白地図に都道府県名を記入させる。さらにここでは東北・東海道・九州新幹線（未完成区間を含む）を軸に考えるので、最低、青森（八戸）、盛岡、仙台、東京、名古屋、京都、大阪（新大阪）、福岡（博多）、熊本、鹿児島の都市（駅）をとりあげたい。もちろんそれ以外の駅も取り上げてもよいが、煩雑にならないよう留意する必要がある。

2 スタンプを収集

現実には子どもたちが自身で駅のスタンプを収集することは困難なので、インターネット等であらかじめ指導者側が収集しておきたい。さまざま

なデザインのものがあるので、同じ駅でもやや古いものも含めて複数用意しておく、後で幅のある展開ができよう。

《新幹線停車駅の例》（「リレーつばめ」を含む）



3 具体的な展開

新学習指導要領は作業的な学習の重要性をうたっている。そこで次のふたつの方法を取り上げた。
☆ワークシートを活用した場合

- ①白地図を盛り込んだワークシートを作成する。その際、主要都市の位置に○印を付しておきたい。また新幹線の路線についてはあらかじめ点線等で書き入れておくこともポイントになる。
- ②ワークシートに都道府県名を書き込むとともに、できれば新幹線の路線名も地図帳を活用して確認させたい。
- ③あらかじめ縮小して用意した駅スタンプを配布し、当該の箇所を調べて貼らせる。

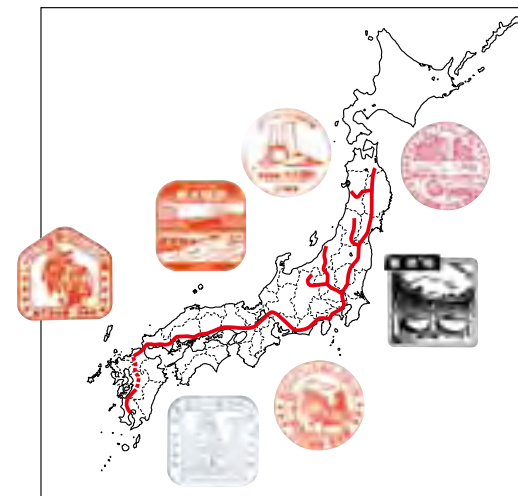
☆板書を活用した場合

- ①やや変形になってもいいので、黒板いっぱいを使った日本列島の略地図を書き、いくつかの都道

府県名を書き込ませる。

- ②指導者が新幹線の主要な路線を書き込むとともに地図帳を見て新幹線の路線名を確認させる。
- ③あらかじめ拡大しておいた駅スタンプを該当の位置に調べて貼らせる。

《白地図にスタンプを貼っていく》



4 駅スタンプを「読む」

駅スタンプのデザインはその地域の代表的な事物を表現していることが多い。そこで上記の作業が終了すると、そこから読み取れることや知っていることを発表させることが重要である。

新学習指導要領も地域の特色として、伝統的な工業や豊かな自然、歴史ある建造物や町並み、祭りなどを取り上げることを示している。これらはまさに駅スタンプにデザインされていることがらそのものであり、スタンプを「読む」学習が言語活動の充実を図り、社会科のねらいにも合致するものとなるのである。

たとえば左は「青森駅」のスタンプであるが、形を見ただけで青森＝りんごがわかる。



また、下は「京都駅」のスタンプであるが、京都のイメージがたくさん組み込まれている。

5 県を概観する学習

新学習指導要領は「県全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置」を学習内容にあげている。したがって、全国と同じく、駅スタンプを活用する手法で県をまとめることもできる。

JRだけでなく、私鉄の中にも駅スタンプを設置している場合が多い。それだけ子どもたちの身近な地域の事例が駅スタンプとなっているのである。現実に駅スタンプを子どもたち自身に収集させることも可能である。

《東京都内の例》



《神戸市内の例》



6 さらに学習を発展させるために

昨今、駅のスタンプは鉄道の駅だけでなく、「道の駅」や「サービスエリア」にも用意されており相当充実している。地域の交通網も道路が主体になり、子どもたちの家庭も自動車を中心に生活している場面も多いので「道の駅」のスタンプも活用したい。

いずれにしろ多くのスタンプを準備して、たとえば新幹線の通過県の順に並べたり、特徴ある産業のものを取り出すなど、さまざまなゲーム的な展開ができると思うので工夫してほしい。

